

仰星ニュースレター

ワンポイント会計基準

vol. 216 「記述情報の開示の好事例集 2020」の公表について（新型コロナウイルス感染症、ESG に関する開示）

金融庁は、「金融審議会ディスクロージャーワーキング・グループ報告」における提言を踏まえ、「記述情報の開示の好事例集」を公表してきました（2019年3月公表、同年12月更新）。

2020年11月6日、新たに「新型コロナウイルス感染症」、「ESG」に関する開示の好事例を取りまとめた「記述情報の開示の好事例集 2020」が公表されました。

・「新型コロナウイルス感染症」の好事例集について

金融庁は、2019年3月の「記述情報の開示の好事例集」の公表と同時に、「記述情報の開示に関する原則」を策定しています。この中で総論として、経営目線の議論の適切な反映、重要な情報の開示（マテリアリティという評価軸を持つこと）、セグメントごとの情報の開示、分かりやすい開示、を求めています。また、2020年5月に、「新型コロナウイルス感染症の影響に関する記述情報の開示について」を公表し、各論としてのQ&Aを公表しました。

Q&Aにおいては、新型コロナウイルス感染症が自社の経営環境どのような影響を与えているかについて、自社の弱みや課題、自社にとっての機会やリスクに関する経営者の認識を、セグメントごとに記載することが求められています。加えて、今後の経営環境にどのような変化をもたらす可能性があるかの記載が期待されています。また、対応策について取締役会等で議論している場合は、その内容を具体的に記載することが望まれます。対応策の記載にあたっては、経営成績等に係る対応策だけでなく、リモートワーク等、事業活動に係る対応策についても記載することが期待されています。

これらのポイントを抑えた事例が、好事例集に収録されていますので、参考にして下さい。

・「ESG」に関する開示の好事例

そもそも ESG とは、Environment（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）の頭文字をとったもので、財務情報だけでなく、ESG 要素の観点も含め企業を評価し、投資することを ESG 投資といいます。金融庁の好事例集では、ESG 要素の具体的項目として、SDGs(Sustainable Development Goals)と事業の関連性、ダイバーシティの推進、気候変動、人材育成・人材投資、デジタルトランスフォーメーション、経営者メッセージ、を切り口として掲げています。ESG に関する開示においても、「記述情報の開示に関する原則」の総論と絡めて、上記の各項目を記載している事例が、好事例として評価されているようです。「重要（マテリアリティ）」な「経営戦略（経営目線）」を「サステナビリティ」や「ダイバーシティ」、「気候変動」と絡めて、「分かりやすく」記載している事例が収録されていますので、こちらも参考にして下さい。